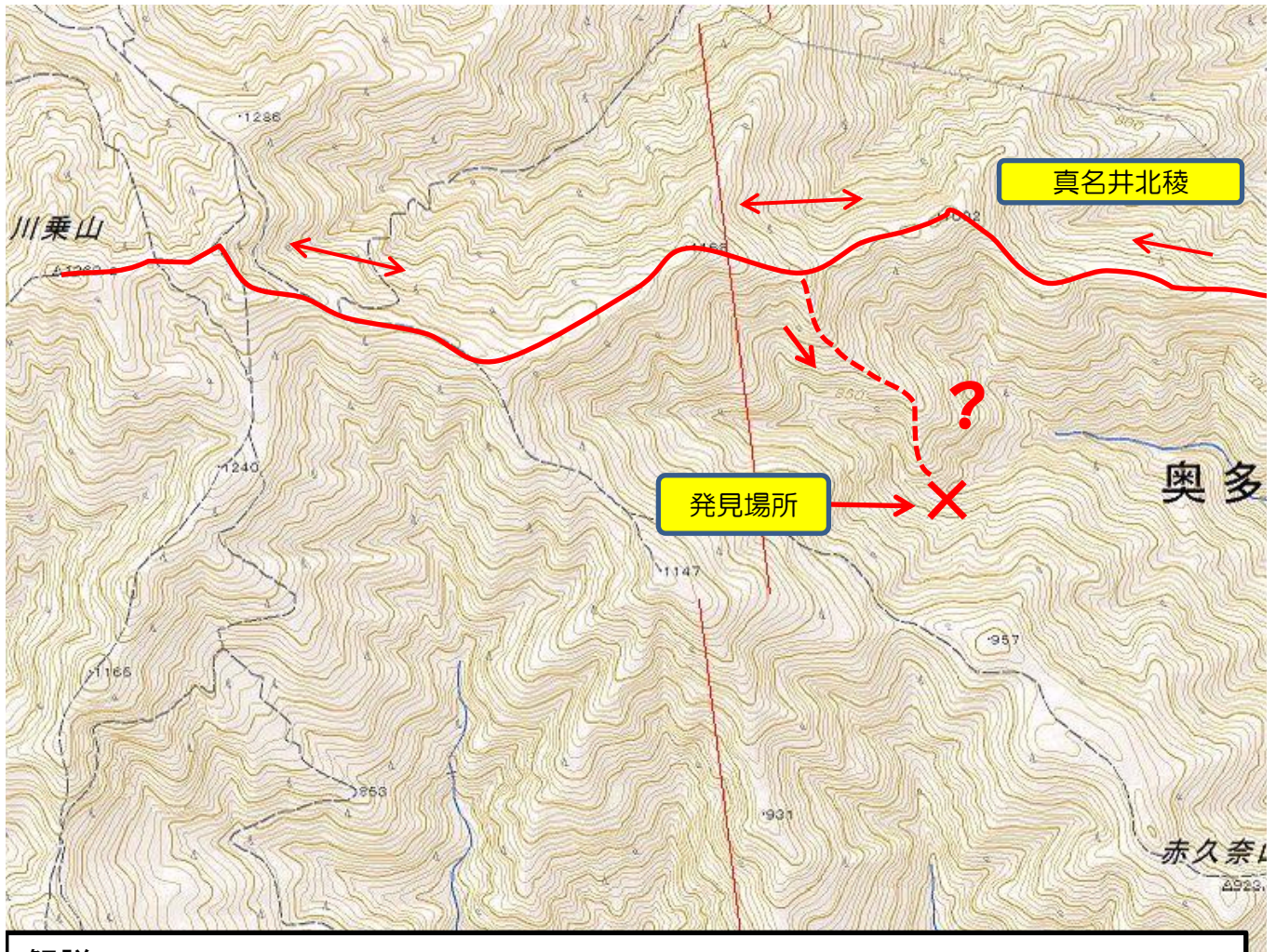


## 川乗山(川苔山)遭難(2010年9月)

真名井北稜の下り道で道迷い。バリエーションルートで道が不鮮明のため同ルート下降ができず、1週間後に沢で遺体を発見した。



## 解説

登山計画書は作成されておらず、家族に「奥多摩の山に行ってくる」と言って自宅をでた。道迷い後に発見が遅れた要因である。真名井北稜は登山地図では正規の登山道として扱われていない。通常の登山道では飽き足りない登山者が、よりスリリングなバリエーションルートを求めて入り込むことが多くなった。

迷い込んだ尾根は、急に高度を下げている。真名井北稜は、緩やかに高度を下げているため、明らかに違う。予測がしっかりできていれば、「あれっ！おかしい」と気づくはずである。仮に遭難者は気づいたとしても戻ることはしなかった。これが、道迷い遭難なのだ。「何とかなる」と思ってはいけない。沢へ下ってはいけないのだ。

地図をよく見てみよう。迷った尾根分岐の地形は非常に難しい。正しい真名井北稜への道は、尾根は丸く(なくなったように見える)不鮮明。かつ、少しだけだが、急な下りになっている。これでは、コンパスで進行方向を確認していなければ、迷い込んだ尾根に入ってしまうのは容易だ。迷い込んだ尾根の方が、丸くなく、よっぽど尾根らしく見えるのだ。

特に、バリエーションルートの下りでは、慎重の上にも慎重に行動したい。コンパスの技術も身につけないといけない。この事例を参考に注意してほしい。